

導入課題2：ドローツールによる描画スキル

学籍：NE19-1046B 氏名：井上翔大

1. テーマから気づいたこと / 考えたこと / 学んだこと

このテーマではベジェ曲線によるパスを引いて狙い通りの曲線を描くことが目的であった。エクササイズ1のような正円の半分を描くのは説明をみながらであれば簡単にできたが、エクササイズ2の専大ロゴは少し独特なカーブを描いていたのでぴったり合わせるのに苦戦した。また課題の花のトレースではたくさんの花弁を1枚ずつトレースして、そのパーツを本物の画像と同様に重ね合わせていくのが難しかった。よく街中で目にするオシャレな広告や魅力あふれるポスターなどは、制作者の才能によるものではなく、地道な努力によって生み出されいることがわかった。コンピュータの中で絵を描く場合、紙に鉛筆で描くよりも自由が利かないので様々なツールを用いた工夫が重要だと考えた。

2. 技術的な点で気づいたこと / 考えたこと / 学んだこと

シーンの描画では中心となる人間だけでなく、周りの背景にも気を配ることで人が実際に生活している状況がみている人に伝わりやすくなることに気づいた。また、背景にあるモノに対しても立体感が出るように描くことでより本物のシーンに近づけることができると学んだ。花の描写では、1つのレイヤーの上で描くのではなく、たくさんのレイヤーを重ねていくことでより立体的な花を描くことができると学んだ。花の色は単色ではないので様々な色を用いて、グラデーションも付けながら配色していくと画像のような美しい花を再現できると考えた。トレースは何回もやり直して、試行錯誤しながら取り組むことが良い作品を生み出すためには大切であり、その取り組みが結果的にドローツールを用いた描画スキルの向上に大きく貢献していくと考えた。

取り組んでみた感想

今回の課題に取り組んだことで、花の形というものは今まで自分が思っていたよりも複雑で、一つ一つの花弁が繊細にできていることがわかった。このような複雑なものをトレースして再現するのは難しいが、何度もチャレンジしていけばおのずと実力もついていくと思うので、時間があるときにどんどん試していきたいと思う。